

米突、恰も小山脈の如く、其の傾斜、麓に於て緩なるも、漸次上るに従うて甚だ急なり。地は多量の鹽分を含むに因り耕すべくも非らざるが、小宛の西方一里餘の間は、沿道多少の乾田及樹木の民家と相點綴するを見る。而して更に其の西方約一里なる道路の南側は、一の小柳樹林を成せるも、其れより以西は樹木なく住家なく、唯二三の川流(皆徒渉し得べし)道路を横斷するもの有るのみ。安西の東約二里の處に進めば、砂礫俄に増加し、安西附近に到れば、全然砂地と成り終れり。

安西城は、人家約八百、官衙には直隸州、協台、遊擊、都司等、公所には電報局ありて、僅少の雜穀を産し、田地は西東南の三方處々に散在す。燃料は南山の柴薪及笈々、馬糞の外、遠く北山の樹木に頼り、飲料は井水を用ひて最も良し。當城は新疆と本部の交通要路に當るも、商業は盛ならず、唯々旅店十餘戸の纔に行客の膝を容るゝに足るもの有るを見る。

安西北に去れば愈々純然たる沙漠にして、哈密ハミに到る間、一物の供給も之を其の途上に仰ぐを得ず。今や正に此沙漠即ち戈壁の地を跋渉すべきに臨みたり。有らゆる準備の爲め、予は此に一日を滞在す。露領土耳其機斯坦人の營める數軒の商